

仏在住の詩人・翻訳家  
関口涼子さん聞く詩作と翻訳  
聞き手・國分功一郎



日時 11月12日(水)15時～17時  
場所 東京大学駒場キャンパス101号館1階セミナー室  
登壇者 関口涼子 国分功一郎(聞き手)  
主催 東京大学・東アジア藝文書院(EAA)  
参加 無料(登録不要・どなたでもご参加いただけます)

日本生まれで、フランス在住、パリを拠点にして詩人、作家、翻訳家として活躍されている  
関口涼子さんをお招きしてお話を伺います。

関口さんは本学の総合文化研究科、比較文学比較文化専攻にて修士課程を修了後、渡仏され、  
それ以来、フランスでずっと執筆活動をなさってきました。2012年にフランス政府から芸術  
文化勲章シュヴァリエを受章、また、2022年には『ベイルート961番』の仏語版で第42  
回フランスレバノン文学賞審査委員特別を受賞されていることからも分かる通り、今でこ  
そフランスでも名の知れた書き手として活躍なさっていますが、それまでには様々なご苦労  
もありだったとのことです。

今回は、偶然にも関口さんが最初に渡仏された際に、同じ財団の奨学生として知り合いに  
なった本学教員の国分功一郎が聞き手になって、関口さんから、フランスでの生活のこと、  
執筆活動のこと、日本のマンガの翻訳のこと、若い人たちに伝えたいことなど、普段はなか  
なか聞けないお話を伺いいたします。